ご存じですか？

若年性認知症

9月は世界アルツハイマー月間です。誰もがかかる可能性のある認知症について紹介します。

問合せ
高齢者支援課（市役所４階）
☎55-2951　FAX55-2920
E ho-koureishien@div.city.fuji.shizuoka.jp

相談窓口
担当地区の皆さんの相談に応じます
富士市地域包括支援センター
詳しくはこちら▶

若年性認知症とは

認知症は一般的には高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症した場合、「若年性認知症」と言います。

若年性認知症の発症平均年齢は約51歳で、女性よりも男性に多いと言われています。また、日本の若年性認知症発症率は、18～64歳人口における人口10万人当たり約★51人と推計され、市内には約71人いると推計されます。

★平成29年度～令和元年度に実施した日本医療研究開発機構の調査より

早期発見・早期対応が大切

「仕事で今までしなかったミスをすることが多くなった」「家事をするのがおっくうになってきた」といった変化があっても、年齢からうつ病や更年期障害などの病気と思われ、発見が遅れてしまうことがあります。そのため、以前はできていたことができなくなってしまったなどの「変化」を自分自身や家族、身近な人が見過ごさないことが大切です。

生活や家族への影響

若年性認知症特有の問題は、「働き盛り世代」「子育て世代」だということです。休職や失業による収入減などの経済的な問題や子どもの養育、教育などへの影響も出てきます。また、配偶者が働きながら介護をしている場合、身体的・精神的にも負担が大きく、追い詰められてしまう場合もあります。

医療機関の相談員から

初めて診断を受けた人は「今後どうなってしまうのか、生活や仕事、お金の心配もあり、どうしたらよいのか…」と戸惑う人が多くいます。

現実を受け止めきれず、さらに今後の心配があふれ出ている様子が見られます。現実を受け止めることは大変ですが、早期に相談することが、進行を遅らせることもあります。

不安や心配への解消方法の１つとして…

若年性認知症と診断された本人と家族を対象に、今年の６月から情報交換と交流ができる『よりあい処「ろばちゃん」』を開催しています。

参加した本人たちからは…

花が好きだから、地域や小学校の花壇に花を植えたい。

草取りならできるからやりたい。

みんなと一緒に散歩をしたい。

といった声や、「また会えた」と安心してお互いに話をしていました。

同席した家族は…

診断を受けたときの思いや現在の症状、生活状況、介護方法、介護者としてのストレスをためない方法、相談相手は誰かといった情報交換ができました。

同席した専門職は…

本人たちは一人でいると何をしてよいか分からなくて、不安が募ってしまう。一番よいのは仲間と一緒にいること、本人ができることは、今までと同じようにやってもらうこと。同じような経験をした人の話を聞いて、いろいろな対処方法を知っておくことが大事です。

よりあい処「ろばちゃん」

と　き／第１土曜日（３か月に１回）13:30～15:00
※次回以降の予定は、９月２日、12月２日、令和６年３月２日です。
ところ／富士市役所
問合せ／高齢者支援課 地域支援担当 ☎55-2951

9月30日まで実施　世界アルツハイマー月間イベント

■市役所２階市民ホール
- パネル展示（期間中、イオンタウン富士南でも展示）
- 認知症に関する相談会（9月6・13・20日の各水曜日　10:00～12:00、13:30～15:30）

■中央図書館
- 認知症に関する書籍特集

■富士川サービスエリア（上り）
- 大観覧車Fuji Sky View（フジ スカイ ビュー）　オレンジライトアップ

※9月21日㈭の18:00～21:00のみ実施。

期間中、市の認知症サポーターのシンボルマークのヘッドマークを付けた岳南電車が走ります！